

「誰一人取り残さない」ために： 防災情報をどう伝えるか



日時：11月28日（日）13:30～15:30

場所：市民文化センター2階 研修室1・2

定員：先着36名

（新型コロナウイルスの感染拡大状況によりMicrosoft Teamsでの開催となる場合があります）

佐野 真理子 先生

広島大学名誉教授、防災士
スタンフォード大学大学院博士課程修了、Ph.D.

相愛大学を経て、広島大学大学院総合科学研究科に通算26年間務める。

専門分野：文化人類学；アメリカ社会・文化・歴史研究；高等教育のユニバーサルデザイン研究

主な著書：『アメリカ人の老後と生きがい形成：高齢者の文化人類学的研究』

（大学教育出版，1999年）

Life in Riverfront: A Middle-Western Town Seen Through Japanese Eyes

（共著，Harcourt Brace College Publishers，2001年）

『高等教育のユニバーサルデザイン化：障害のある学生の自立と共存を目指して』

（共著，大学教育出版，2004年）

退職後、西日本豪雨災害を機に、防災士の資格を取得 地域社会で防災活動や防災研修に従事

内容

①過去の災害を振り返る

見えない隣人、「外国人」の多様性について考えます。

②防災情報の伝え方を考える

自分・相手の経験、相手のニーズについて考えます。

言語の問題だけではない、異文化理解としての防災支援を考えます。

③グループワーク

講義の内容を踏まえたグループワークを行い、理解を深めます。



←申し込みはこちらから

もしくは電話またはメールで

参加者全員の①名前（ふりがな）、②電話番号、

③メールアドレスをお知らせください

（公財）東広島市教育文化振興事業団

市民文化センター（サンスクエア1F）

TEL:082-424-3811

Email:tabunka@hhface.org

